

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1438 号	氏名	ムタントウ ンセレ ピエール
学位審査委員	主 査 西田 教行 副 査 山本 太郎 副 査 好井 健太郎		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の原因ウイルス Severe acute respiratory syndrome coronavirus-2 (SARS-CoV-2) の N タンパク質を用いた安価で簡便な抗体検出法の開発と評価を目指したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 SARS-CoV-2 の N タンパク遺伝子 (2019-nCoV/Japan/TY/WK-521/2020 株) の N 末端 (121 残基) を欠損させた遺伝子断片 ($rN_{\Delta 121}$) を RT-PCR 法により増幅し、大腸菌に発現させ精製を行った。精製したタンパク質を用いてして間接 ELISA 法により N タンパク抗体を定量的に測定した。177 検体の新型コロナウイルス感染疑い例の血清、155 検体の陰性血清 (新型コロナウイルス出現前に採取された検体) を用いて、間接 ELISA 法やウイルス中和試験との比較を行い感度・特異度を統計学的解析法で解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、$rN_{\Delta 121}$ 抗原を用いた間接 IgG-ELSIA 法では S タンパクを用いた間接 IgG-ELSIA 法、およびウイルス中和試験と比較して、それぞれ感度は (91.1% vs. 91.9%)、特異度は (93.8% vs. 93.8%) と算出された。今後の分子遺伝学的研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文はコロナウイルス研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			